

松が谷高校の生徒の皆さんへ ー校長メッセージー（15）（令和3年7月20日）

## 「利他の心」と「人を頼る勇気」

校長 博田 英明

皆さん、おはようございます。校長の博田です。

1学期は今日で終了し、明日からは夏季休業が始まります。今回も放送での終業式となりますが、この1学期の間も感染拡大防止に向けて、毎日の健康チェックや消毒、昼食時の黙食、密を避けた行動など様々な面における生徒の皆さんの協力に感謝しています。今日は、皆さんがこのコロナ禍といわれる状況の中でも、生き生きとした学校生活を送るための人と人との関係のヒントについてお話しします。キーワードは、「持ちつ持たれつ」、「お互い様」、英語で言うと give and take の大切さです。

まず give についてです。皆さんは「利他の心」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。「利他」というとあまり聞きなれない言葉だと思いますが、漢字でいうと「利」は「利益」の「利」、「他」は「他人」の「他」です。「利他」の反対の意味を表す「利己」を使った「利己主義」という言葉は聞いたことがあるでしょう。自分だけの利益を優先するという考え方です。つまりこの「利己」に対して「利他」とは、他人をよくしてあげようという優しい思いやりを大切にす考え方です。

この「利他の心」と、皆さんが今普通に使っている携帯電話とは、実は大いに関係があるのです。日本の代表的な企業経営者である稲盛和夫さんは、この「利他の心」を大切にすて、京都セラミックという会社を一代で大企業に育て上げ、その後、人々ができるだけ安い通話料で通信ができるようにと、KDDIという会社を設立しました。このKDDIが現在多くの人が使っているauという携帯電話会社に発展しました。稲盛さんは「これからは通信の時代が必ずやってくる。その時、人々ができるだけ安く通信できるように」と会社の利益よりも利用者が手軽に通信できればとの願いを込めてKDDIを興しました。しかし会社経営は試行錯誤の連続だったようです。「会社がうまくいかないのはなぜだろうか。どのようにしたら社員がやる気を出してよい会社になるのだろうか」ということを稲盛さんは考え抜き、いろいろな方法を試して得られた結論が「利他の心」という考え方でした。「自分の持てる力を世のため人のために使う」ということを実行したら、会社の仲間が意欲的になり、自然に周りの人から協力が得られるようになってきたそうです。つまり、自分のためではなく、まず人のために動いたことで結果的に成功につながった良い例といえます。皆さんも自分自身を振り返ると、このような経験があるのではないのでしょうか。

次にgive and takeのtakeについてです。私はこのtakeを、「人を頼る勇気」という言葉に置き換えたいと思います。皆さんは、先月最終回を迎えたテレビドラマ「ドラゴン桜」を見ていましたか？ 弁護士の桜木先生が経営破綻寸前の学校で東大進学を目指す特別クラスの教壇に立つというストーリーで、私も毎週楽しみに見ていました。その中に瀬戸君という生徒が出てきます。実家のラーメン店でのトラブルから勉強どころではなくなって学校に来なくなった彼は、「誰にも迷惑かけたくないんだ」と孤独感に襲われて涙を流します。桜木先生は弁護士の経験と知識を活かしてこのトラブルを解決し、この生徒を救いました。先生は彼に改めて共に勉強しようと誘い、「瀬戸、もっと人を頼れ」と助言する

場面がありました。私にはこの「もっと人を頼るべきだ」という言葉が非常に印象に残りました。桜木先生は生徒たちに「お前たちは運がいい。なぜなら俺がいるからだ」と話しました。誰かを頼れる環境があるのだから、それだけで運がいいんだということです。誰かを頼って、自分のできていないところをカバーしていく、そういう生き方をしてはどうだろうかというメッセージでした。その結果、このドラマでも、最後には多くの生徒たちが合格を勝ち取りました。生徒の皆さんも、もっと人を頼ってもいいのではないのでしょうか。その「頼り方」が上手ければ上手いほど、自分ができないことや自分の弱点を補っていくことができるということです。

さて、今お話したgive and takeの考え方を学校生活に応用できないでしょうか。例えば、皆さんには行事などでクラスの仲間とうまく協力できなかったという経験があると思います。みんなと協力していいものを作り上げたいという気持ちはあるのだけれど、気持ちばかりが空回りして上手くいかない。そうした時に、give、つまり「利他の心」を思い起こし、自分の利益ばかりでなく、他の人のプラスになる行動をとってみる。またtake、すなわち「人を頼る勇気」を思い出して、自分が苦手な部分については思い切って人を頼ってみる。そういう行動をとることで、きっとこれまでとは違った関わり合いが生まれてくると思います。また個人だけでは解決できない課題でも、みんなと一緒に取り組めば、思ったよりも楽に困難を乗り越えられることもあります。皆さん一人ひとりがこの「利他の心」と「人を頼る勇気」を大切にすることで、クラスや学年、そして学校全体が温かで活気あふれることになることを期待しています。

以上、明日から始まる夏季休業、また9月から始まる第2学期においても、周りの人とのgive and takeつまり「持ちつ持たれつ」「お互いさま」の関係を大切にしていってください。そして学校の仲間だけでなく、家族や親せき、地域の人たちへと広げていってください。現在、メジャーリーグで大活躍中の大谷翔平選手も、アメリカという異文化の中でずっとこのgive and takeの関係を大事にしてプレーしているからこそ、素晴らしい結果に結びついているのだと思います。今日は、人と人との関係におけるgive and takeの大切さについてお話することで、終業式での私からの挨拶とします。それでは、第2学期、元気な顔でお会いしましょう。